

令和 8 年度
大学院連合教職実践研究科
教科研究開発高度化系
入学者選抜 10 月選抜

教科学習探究コース
言語・文化プログラム
学力検査問題

専門科目：プログラム別問題
(教科：国語)

注 意 事 項

1. 問題冊子は監督者の指示があるまで開かないこと。
2. 問題冊子の科目名及び教科名と受験票に記載してある科目名及び教科名が一致しているか確認すること。
3. 問題冊子は表紙を除いて3ページ、下書用紙は1ページ、解答用紙は3ページとなっている。
4. 問題冊子等の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
5. 試験開始後、全ての解答用紙に必ず受験番号を記入すること。
6. 試験終了後、解答用紙は提出し、問題冊子は持ち帰ること。
7. その他については、監督者の指示に従うこと。

プログラム名	言語・文化プログラム
--------	------------

科目名 (教科名)	専門科目 プログラム別問題 (国語)
--------------	--------------------------

(3 枚の 1)

令和 8 年 度
大学院連合教職実践研究科
教科研究開発高度化系
入学者選抜 10 月選抜
試 験 問 題

1 次の項目から 1 つを選んで、説明しなさい。解答用紙に選んだ項目の記号を記すこと。

- a. 三読法 b. 谷川俊太郎
c. 歌物語 d. 漢文の素読
e. 特別の教育課程としての日本語指導

2 次の資料は、平成 29・30 年告示学習指導要領解説国語編に記載された各学年の内容の系統表のうち、〔思考力、判断力、表現力等〕の「読むこと」に関する事項の表である。以下の条件に従って、国語科で行う「読むこと」の授業計画を書きなさい。

- ① 指導事項を 1 つ選び示すこと。例：中学校第 1 学年ア、高等学校「現代の国語」イなど
② 教科書の中から教材を設定して、教材名を示すこと。
③ 単元計画を立てること。
④ 単元計画案の中のいずれかの 1 時間を本時案として学習指導案を書くこと。

「小学校」

	(小) 第 1 学年及び第 2 学年	(小) 第 3 学年及び第 4 学年	(小) 第 5 学年及び第 6 学年
	(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
構造と内容の把握	ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。	ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。	ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。
	イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。	イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。	イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。
精査・解釈	ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。	ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。	ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。
	エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。	エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。	エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。
考えの形成	オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
共有	カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。	カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

プログラム名	言語・文化プログラム
--------	------------

令和 8 年 度
大学院連合教職実践研究科
教科研究開発高度化系
入学者選抜 10 月選抜
試 験 問 題

科目名 (教科名)	専 門 科 目 プログラム別問題 (国語)
--------------	-----------------------------

(3 枚の 2)

「中学校」

(中) 第 1 学年	(中) 第 2 学年	(中) 第 3 学年
(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
ア 文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること。	ア 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えること。	ア 文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えること。
イ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。		
ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。	イ 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。 ウ 文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。	イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。
エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。	エ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること。	ウ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。
オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること。	オ 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。	エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。

プログラム名	言語・文化プログラム
--------	------------

令和 8 年 度
大学院連合教職実践研究科
教科研究開発高度化系
入学者選抜 10 月選抜
試 験 問 題

科目名 (教科名)	専 門 科 目 プログラム別問題 (国語)
--------------	-----------------------------

(3 枚の 3)

「高等学校」

	(高) 現代の国語	(高) 言語文化
	(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
構造と内容 の把握	ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。	ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること。
精査・解釈	イ 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。	イ 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。 ウ 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。 エ 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。
考えの形成		オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。
共有		

引用元：文部科学省、『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説国語編』，平成 29 年 7 月，pp. 202-203.（URL: https://www.mext.go.jp/content/20220606-mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf），最終閲覧日 2025 年 6 月 30 日。

文部科学省、『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説国語編』，平成 30 年 7 月，p. 330.（URL: https://www.mext.go.jp/content/20210909-mxt_kyoiku01-100002620_02.pdf），最終閲覧日 2025 年 6 月 30 日。